

やまたらけ

YAMADARAKE

DECEMBER

No. 32

2008

早川ファッショント通信

南アルプス街道の中ほど、野鳥公園の入り口に、おばあちゃんの顔が描かれた看板が目印の、その名も「おばあちゃんたちの店」があります。ここは、地元の女性たち6名が力を合わせ、遊休農地を利用して栽培した農作物や漬物、その他町内の特産品などを売っているお店です。そして、お店の向かいの畑では、おばあちゃん達がなにより作業中。そう、今日はお店でも人気商品のエコマの収穫日なのです。てきぱきと働く、おばあちゃん達。帽子をかぶっていたり手袋をはめていたり、はたまた花柄の服を着ていたり、人によって実に様々な姿。思い思いの服装で楽しそうに働く様は、見ていて気持ちがいい。

おばあちゃん達の着ている作業着は一般的に「野良着」と呼ばれ、かつては木綿を織って作った「かすり」や「もんぺ」が用いられてきました。しかし、昭和30年代頃から新しい繊維を使った洋服型のものが現れ、機能性とともに、ファッション性も高められてきました。

巷の本屋には、数多くのファッション雑誌が立ち並んでいます。早川にはそんな本には決して載らない、おばあちゃん達だけの野良着ファッションがあります。

今号では、今どきの早川のおばあちゃん達の野良着トレンドを、余すところなく紹介します！(並木義和)



流行の先端は 花柄模様のヤッケ

▲この日のために、わざわざ新調してくれた花柄のヤッケ。「可愛いでしょ」といって笑う泰子さん。



花柄のヤッケがお気に入り 泰子さん

元気いっぱい、おばあちゃんたちの店のまとめ役の泰子さん。こだわりはチョッキ。「中に着込んでいれば、朝は温かいし、昼間は脱げば涼しいでしょ」。

上半身は、昔は「かすり」と呼ばれる、木綿を織って作った着物を着ていたみたい。でも、今は「野良着」といってもね、着古した普段着をおろして、野良着として着ているのよ」と、そっけないお返事。着るものの素材や機能性は特に気にせず、汚れても構わないものを着るようです。

♥ズボンは今でも 「もんぺ」が主流

でも、ズボンは今でも「もんぺ」。風通しがよく、しゃがんでもつっぱらないようにお尻や腰回りがゆつたりしているのがいいみたい。最近では、機能性を高めたものも登場。

「足首にゴムが付いているの。ゴミも虫も入らないし、化学繊維だから洗ってもすぐ乾くのよ」。

冬の寒い日でも作業できるよう、ワタの入ったもんぺもあり、もんぺの揺るがざる人気が分かります。

しかし、近頃このもんぺ人気を脅かしているのが、ナイロン製の作業着。ツルツルしているから、大抵の汚れは払えば落とせるし、風も通さず暖かい。「途中で休んでお茶飲んだり、お話しながらやれば、また元気も出てくるでしょ」と休憩するときに、地べたに座っても汚れない。それが、人気の理由。

しかも最近では、かわいい花柄模様で、上下セットになった「ヤッケ」が

発売されて、さらに人気に拍車がかかっている様子。

上下ともにヤッケを着れば、多少の雨でも平気。さすがに暑いというときは、下だけ履いて、上は前かけやエプロンというときも多いけど、「ホコリが立つ時は、ヤッケも着るのよ」。豆打ちや、工「マ叩き」のときにはしっかりと着てくるようです。



写真上：冬用のもんぺ。なかにワタが入っていて暖かい。
写真左：おばあちゃんたちの店で売っていたもんぺ。最近のものは化学繊維になっていて、軽く乾きやすいのが特徴。



エプロン大好き 辰江さん

「畑でも家でもエプロン」という辰江さんは、薄いものや動きやすいものがお気に入り。でもヤッケも捨てがたい。寒さも汚れも防げるし、洗ってもすぐに乾いてしまうところが大好きなんだとか。



元気がいい、おばあちゃんたちの店のまとめ役の泰子さん。こだわりはチョッキ。「中に着込んでいれば、朝は温かいし、昼間は脱げば涼しいでしょ」。



シンプルが一番 知子さん

シンプルなヤッケを着ていて、畑仕事の姿がカッコイイ知子さん。エゴマの収穫のときには、顔まで覆える網のついた帽子をかぶっていた。これをしていけば、「虫もホコリも気にならず、働きやすいの」と、その実用性を高く評価している様子。



地下足袋が長靴が 畑に合わせて

山や畑仕事では、足下にも気を遣います。特に、山の畑で仕事するときや坂を歩く場合には、昔から地下足袋を履いてきました。「地面にぴったり合って、歩きやすいから」と、機能が重要視されています。

ただ、地下足袋は布製なので、どうしても汚れが目立ってしまう。ということで、普段の畑仕事ではビニール製の長靴を履く人が多いみたい。

でも、長靴も完璧というわけじゃない。土や砂が入って作業しづらかったり、靴下が汚れたりということもしばしば。それを防ぐために、長靴の上にヤッケのズボンをかぶせるなどの工夫をしています。(写真左は、八重子さん愛用の地下足袋)



手ぬぐいで 「あねさんかぶり」

昔から日常的に使われてきたのは、「手ぬぐい」。かぶり方は、頭に乘せて後ろで結び「あねさんかぶり」。

手ぬぐいは、ホコリやゴミをよけられるし、夏の暑いときにかぶっても涼しい。手を切ったときにも、止血に使える。そんな使い勝手の良さから、頭にかぶらなくても首に巻いたりして、今でも重宝されています。

一つで二度楽しめる リバーシブルの帽子

近頃は、後ろのつばの部分が長くなっていて、首元まで覆える帽子が登場。しかも、表裏で柄が違うリバーシブル。一つの帽子で二通り楽しめるコストパフォーマンスが、女性陣の心をぐっと掴んでいます。でも、生地が厚くなってしまっているので、夏に



帽子コレクター きく江さん

お気に入りの三輪自転車に、野菜を乗せてやって来たきく江さん。「10個くらいは持っている」という帽子コレクター。でも、「結局かぶらないのもあるのよねえ」とお茶目な一面も。長靴にもこだわりが。足下が汚れないように、いつもこの長靴を履いて畑仕事をするのだそう。



写真上：辰江さんのリバーシブル帽。裏の花柄が見えている。
写真左：薄手の帽子。軽くて涼しくて、日差しもよけられる。



はあごに汗が溜まるという欠点も。そこで、おばあちゃんたちに人気なのは、薄い一枚の生地のできた帽子のなかに手ぬぐいでほっかがむりをするスタイル。夏の暑さにも耐えられるし、ゴミもホコリも通さない。最近ではピンクや水色の花柄も増えてきて、選ぶだけでも楽しそう。やっぱり、実用性とお洒落の両立が、人気の



てもと

♥ 浸みない、蒸れない 「背抜き」の手袋

やっぱり、直に土や農作物にふれる手が一番汚れやすいし、怪我もしやすい。そこで、おばあちゃんたちは普段から手を覆って作業をしています。

手自体を覆うものといえば、普通は軍手を想像するかもしれませんが、軍手は水気に弱いのが欠点。水が浸みない、ビニール製の手袋を使っている人も結構多い。でも、これは逆に汗で手袋の中が蒸れるのが欠点。ということ、最近おばあちゃん達の間で流行っているのが「背抜き」とよばれる手袋。なんと、指や手のひらの部分はビニール、手の甲(手

袋の背)の部分は布でできているのです。おばあちゃん達からも、「軍手に比べてびったりするし、涼しいから使いやすいのよね」と、大評判。水が浸みない、汗で蒸れないという、相反する課題を克服した、このスパー手袋。ただ、バラなど刺があるものにはより分厚いビニール手袋をするなど、用途によって使い分けられているようです。

♥ 事務屋も欲しいがる？ お洒落な「うでい」

また、袖元の汚れを防ぐための「うでこ」も欠かせません。そう、まん丸眼鏡をかけた事務屋さんが腕に良く付けているアレです。

でも、おばあちゃん達がつけている「うでこ」はもっとお洒落。カントリー風のものや、色とりどりの花柄のものなど、いろんな柄が売っていて、見るだけでも楽しくなってしまう

ます。

機能的にも、手の甲まで覆ってくれるものもあったり、夏は半袖にうでこ、冬は長袖にうでこ、と畑仕事に必携のアイテムなのです。



おばあちゃんたちの店で売っている、お洒落なうでこ。ギンガムチェックも人気。



かすりが似合う 八重子さん

八重子さんが住んでいるのは、おばあちゃんたちの店から車で山道を登って15分ぐらいのところにある茂倉(もぐら)集落。山の急傾斜の畑では、地下足袋が最適。また「畑仕事をするのに背負子と杖、それからびくは手離せなかった」。背負子で荷物、びくには刈った草、また野良着がすれないよう前かけを腰に巻き、前で縛り中にウリやトマトなどを入れて運んだとのこと。

♥ 昔の野良着、発見！

昔、おばあちゃんが畑仕事るときに着ていたという「かすり」を持ってきてくれた八重子さん。使ったかすりを、野良着用に仕立て直したものです。紺色の生地、白い細かい模様が入っています。模様が不均一なのが、いかにも手作り。

下は「からさん」とも呼ばれる「もんぺ」か、さらに昔は「たっつけ」。切り込みが入って腰の部分が前後に分かれ、それぞれに付いている紐を前と後で縛って履くんだそうです。山で仕事をするとき

によく使われたそうですが、それは後ろ側だけ下ろせば用を足せるようにデザインされているからだとか。



手ざわりは、ちょっとごわごわ。重さも結構あって、夏は大変かも。でも、なんだかいいですよ。下は、模様の拡大図。



前かけがすてきな 梅子さん

隣町の中富町(現身延町)からお嫁に来た梅子さん。畑仕事を始めたのは、子供が保育園に行くようになってから。そのため、着ていくのも普段着が中心。



早川町新倉―広河原―伝付峠―井川・二軒小屋
伝付峠 (でんつくとうげ)

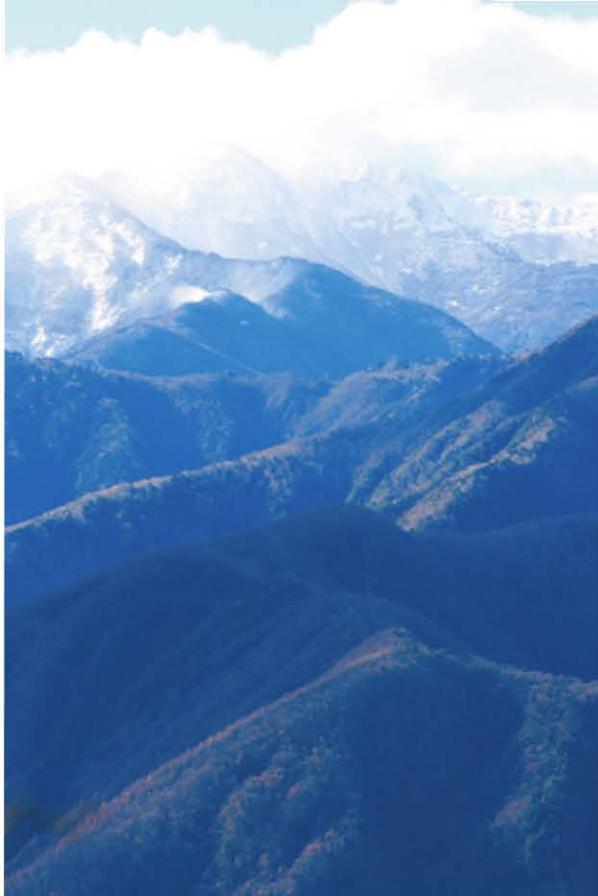
伝付峠は、早川町と静岡県井川との境にある。標高2020mの峠である。新倉から二軒小屋への峠道は、生活道とは言い難いが、歴史の中で様々な用途を変えて利用されてきた。

今から120年ほど前には、身延町切石から伝付峠を越えて長野県の伊那まで行く「伊那街道」の整備が行われた。駿河湾の鮮魚をいち早く伊那谷に届けるための街道整備であった。街道は明治19年に完成したが、管理が困難なことなどからほどなく廃れてしまったという。

第2発電所の建設が始まった。この建設資材を運び上げるための索道に使うワイヤーを、人力で背負い上げた。長いワイヤーを切らずに運ぶため、1人が何巻きか背負い、次の人がまた何巻きか、そのまた次の人が何巻きか…と、数珠繋ぎになって運んだ。ということ、1人が転ぶと、皆、転んでしまったそうだ。

昭和8年になると、東海紙料の会所が二軒小屋に移転してきて、物資運搬などでこの峠道が利用されるようになった。峠道の前半の広河原までは、地元・新倉が専属的に物資運搬の仕事を請け負ったという。こういった用途は、次々に整備される交通手段によっていずれも過去のものになってしまった。ところが、現在、計画が進められているリニア中央新幹線は、伝付峠の下をトンネルで通り、南アルプスを貫通する経路が候補の1つに挙がっている。

伝付峠の歴史に、新たなページが書き加えられる日が来るのかも知れない。



十谷峠付近から伝付峠を遠望する。画面中央、左右が高くなっている稜線の真ん中のくぼんだところが峠。後ろには冠雪した荒川岳。(撮影:村田雅生)



写真右:伊那街道開削図。赤い点線が山の上を通過しているところが峠。身延町歴史民俗資料館蔵。写真中:田代第2発電所。大井川水系と早川水系の水を使って発電している。写真左:新倉の旅館に残る東海紙料の看板。新倉が基地であった頃ののぼり。

早川旬の直送便

できたて一番。幻の果物が再び登場。
ポポのアイス詰め合わせ

今年も、この秋に収穫されたばかりのポポアイスができました。ポポはバナナとマンゴーを足したような味。強烈な香りも、アイスにすることで、マイルドで食べやすくなります。寒い冬、温かいこたつの中でポポアイスどうぞ。

価格/会員価格1,500円(通常価格1,800円)+送料950円
内容/120ml×6個



これが幻の果物ポポ

できたて山葡萄ワイン
恋紫2008フルボトル



早川町産のブドウ100%で作られたワイン「恋紫」。山葡萄とカベルネソービニオンを掛け合わせた「ヤマソービニオン」を使っています。深いルビー色と山葡萄特有の酸味が特徴の爽やかで飲みやすいワインです。クリスマス、お正月用どうぞ。

価格/会員価格1,900円(通常価格2,000円)+送料740円
内容/720ml

※熟成させた方が好きな方には、恋紫2006と恋紫2007もあります。ぜひ新酒と飲み比べて下さい。

会員とは、早川サポーターズクラブ、及びNPO法人日本上流文化圏研究所の会員のことで、今回ご紹介した商品の締切は12月25日(木)です。12月中旬より注文順に発送させていただきます。

■注文・お問い合わせ先/やまだらけ編集部
電話/0556-45-2101(9:00~19:00) ファックス/0556-45-2268(24時間対応) メール/shop@joryuken.net(24時間対応)
いずれも、注文者氏名、住所、電話番号、お送り先氏名、住所、電話番号、商品名、数量をご連絡下さい。ファックス、メールでお申込の場合、折り返しご連絡いたします。3日経っても連絡がない場合は、お手数ですが電話でお問合せください。支払いは、商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振込みください。

お正月に欠かせない早川の味 大根の柚子巻き

早川町ではお正月に作られる柚子巻き。柚子の香りが生きたさっぱりとした一品です。大根に柚子を巻いてさらに干したり、大根を干さずに塩もみしたり、地域によっていろんな作り方があるようです。今回ご紹介する作り方は、おばあちゃん達の店のおばあちゃん直伝。おせち料理に加えるもよし、ふだんの食卓にもよし、お茶請けにもよしです。

■材料

- 大根(中)……1本
- 柚子の皮……1.5個分
- 昆布………適量
- 酢………150ml
- 砂糖………大さじ3
- 塩………小さじ1.5

■作り方

- ①大根の皮をむき、2mm幅にスライスする。
- ②スライスした大根をしんなりするまで干す。(半日～1日)
- ③柚子の皮を千切りにする。
- ④大根に柚子の皮の千切りを1～2本ずつ乗せて巻き、つまようじで留める。
- ⑤ところどころに昆布を散らしながら大根を容器に詰める。
- ⑥酢、砂糖、塩を混ぜたものを容器に流し込み、軽く重石をして空気にふれないようにしておく。約1日で味がなじみます。



読者の声

●(七面山特集は)七面山の裏側、雨畑で中学まで暮らした私には、特別でした。池大神の伝説も、祖母から聞いたことがあります。雨畑川の砂利を袋に入れて、七面山まで裏道を登山したこともあります。塔を建てるためと聞きました。懐かしい遠い日の思い出です。(厚木市、Oさん)

編集部:子ども達が砂利を運んだという話は、初めて聞きました。町内の大勢の子ども達が手伝ったのでしょうか?今回は七面山の歴史や日蓮宗との関係を中心に扱いましたが、いづれ早川町民との関わりについても特集してみたいと思います。

●七面山、身延往還の峠道とも、ぜひ登ってみたいになりました。とくに、峠の紅葉美しいですね。この秋にうかがってみたいものです。個人的には、出雲～七面山～富士～上総一宮を結び逸話にドキドキしました。(匿名希望さん)

編集部:ありがとうございます。早川町に、お越しいただきましたでしょうか?もうほとんど終わってしまいましたが、今年の秋は、いつもに比べて紅葉がとてきれいだっただけがします。地元でも評判でしたよ。

■NEXT やまだらけ

33号特集(2月上旬お届け)

「早川町森林組合の仕事」

早川町の面積の96%は、なんと森林。まさにやまだらけ。森林組合は、そんな早川の山の番人です。森林組合の仕事は、朝は早いし、体力は使うし、よほどの根性がなければできません。でも、ここ数年、そんな山仕事を求めて多くの若者が町外からやって来ています。

次号では、そんな若者達の奮闘ぶりを紹介するとともに、今後の山の行方、その中での森林組合の役割について考えてみたいと思います。

豪華賞品?が当たる やまだらけクイズ!10

問:今号の表紙の写真に注目。おばあちゃんが、一生懸命収穫しているものは、いったい何という作物でしょう。

- 答1, 時期的に「ソバ」でしょう。
2, 香りのいい「エゴマ」でしょう。
3, 最近人気の「キビ」でしょう。

正解者の中から抽選で2名様に、ポポアイス詰め合わせをプレゼントします!

前回のクイズの正解は、3の「一の池の泥を丸めた泥団子」でした。抽選の結果、望月さん(平塚市)、尾崎さん(厚木市)、岩瀬さん(市川市)の3名が当選しました。おめでとうございます!

おばあちゃんたちは偉大です。野良着ひとつとっても色々な知恵がちりばめられていて、それをいかにも普通のこのように語る姿が印象的でした。たかがファッション、されどファッション。そこには、美しさと実用性を兼ね備えた素晴らしい世界が広がっていたなんて、思いも寄りませんでした。寒いのに、薄いジャケットを着るのはやめようと思います。

山を覗けば宝の山
やまだらけ

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町葉袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/